（様式２）

校　種	小　・　中 どちらかに○	学校番号	8	学校名	宇都宮市立　昭和小学校

令和７年度　学習指導に関する取組

１　学習指導上の主な実態

（１）　国・県・市の学力調査などから

・全体として，どの教科も正答率が市の平均と同程度で学習内容の定着が図られている。
・国語では，「書くこと」に関する力に学年間のばらつきが見られる。
・算数では，基礎的な力は定着している。市の平均正答率を上回るものの，数値やグラフの情報を整理し，要点を明確に伝える問題などについて，課題が見られる。
・理科では，資料の読み取りや考察を文章で表現する力の育成が求められる。

（２）国・県・市の児童生徒質問紙・学校質問紙などから

・「勉強が好きか。」という質問に対する肯定的な回答の割合は，低学年で 77.5%，中学年で 71.4%，高学年で 59.0%と，低学年で市の平均を 6.8 ポイント下回り，中・高学年は同程度と昨年度より肯定的回答の割合が低下した。
・ほとんどの学年で「学習に対する気持ちや態度」についての肯定的回答の割合は，市の平均と同程度かやや高い。
・家庭学習（宿題，自主学習）への取組については，90.3%の児童が宿題を期限までに提出していると答えている。昨年より肯定的な回答の割合 3.8 ポイント上がった。学力アップ月間等を活用しながら家庭とも連携を図っていきたい。
・「自分で計画を立てて，家庭学習に取り組んでいるか。」に対する肯定的回答は２つの学年で市の平均を上回った。自主学習の習慣化が課題である。

（３）授業等への取組状況から

・全体的に学習のきまりや進め方が身に付き，意欲的に課題に取り組むことができる。また自分の気付きや疑問を様々な方法で追究し,自分なりの結論を出せるようになってきた児童が多い。しかし，他者の意見を受け止め，考えを発展させる力は十分とは言えない。
・めあてを意識して学習課題に取り組む児童が増えてきた。授業の終わりには，課題に対する結論をまとめ，その日の学びを自分なりの言葉で文にまとめる児童も増えている。
・基礎学力の定着状況については，個人差が大きく個別の配慮が必要な児童が見受けられる。
・１人１台端末などのデジタル機器を活用し，調べたことをまとめたり，相手に分かりやすく自分の考えや調べたことを伝えたりするなど，ＩＣＴを活用する力が着実に身に付いてきている。

２　今年度の重点目標

～主体的・探究的・協働的に学ぶ児童の育成～

・児童の学習意欲を高め，主体的に学ぶ姿勢を育むための「認め励ます指導」の充実
・各教科における基礎・基本の定着
・発達段階に即した学習習慣の確立
・夢や希望の実現に向けて努力する態度を育むためのキャリア教育の推進

３　今年度の取組（「第２次宇都宮市学校教育推進計画後期計画」に関する取組は文頭に★，「令和７年度指導の重点」に関する取組は文頭に□，授業における取組のうち重点は文頭に○）

（１）児童の学習意欲を高め，主体的に学ぶ姿勢を育むための「認め励ます指導」の充実

★□○日々の授業において，「存在を認める，努力を褒める，挑戦を励ます」指導に努めるとともに，振り返りの学習活動における自己評価や相互評価を工夫したり１人１台端末を活用したりして，児童が自他の頑張りを認め合い，自己の成長を感じ取り，自信をもって学習に取り組めるようにする。

★□○児童が協働しながら学びを深め互いに認め合い成長できるよう，児童の実態やねらいに応じて学習形態を工夫する。また，ICT 機器を効果的に活用し，表現力を高める学習活動を重視する。

□○児童がさまざまな場面で目当てを設定する際に，自身に適した目標を設定し，達成感を味わえるよう支援することで自己肯定感の向上を図る。

（２）　各教科における基礎･基本の確実な定着

★□○「宇都宮モデル」を活用して，内容や時間のまとまり（単元や題材等）を見通した授業をデザインした上で，ねらいを明確にして実施しながら，単位時間の指導の充実を図る。

・基礎・基本の定着を図るため，じっくりタイムやステップアップシートを活用して自ら学ぶ態度を育成し，復習の機会を設ける。

★□○基礎・基本を確実に定着させるため，ＡＩ型個別学習ドリルの取組状況等の教育データを活用して児童の状況及び学習指導の成果と課題を把握し，基礎的な学習内容の定着を図る。

★４～６学年全学級の算数科において少人数・習熟度別学習・ＴＴを導入する。児童の実態や単元のねらい，学習効果等を考慮して形態を工夫し，かがやきルームとも連携して計画的に学習を進める。また，高学年における教科担任制の推進を図る。

○継続的・計画的に適切な分量・内容の宿題を出し，保護者とも連携しながら家庭学習の習慣を身に付けられるようにする。

□○学校全体の学力アップ月間を年２回設け，計算力や漢字力アップ，書く力育成などのポイントを絞って基礎学力アップを図る。また，保護者とも連携し，「家庭学習の記録」を活用して，家庭学習を充実させる。

□○児童が安心して学習を進めながら，自己の能力を最大限発揮していくことができるよう，活動の目的や手順を示したり，児童の長所や経験を生かして追究方法を選択させたりするなど，特別支援教育の視点も取り入れながら，「困難さに応じた指導」はもとより，「よさを伸ばす指導」の充実を図る。

（３）　発達段階に即した学習習慣の確立

・「家庭学習の手引き」年度初めに配布し，学習習慣の定着を促すとともに，保護者の協力を得て家庭学習の習慣化を支援する。

・児童の実態に応じた，実現可能な学習計画の立案を支援することにより，児童が自ら学ぶ力を育てる。

（４）　夢や希望の実現に向けて努力する態度を育むためのキャリア教育の推進

★□地域や公共機関との連携により，生活科・総合的な学習の時間など，地域の施設を利用した学習を展開する。（八幡山，地域の商店や事業所，公共施設，昭和小子どもインターンシップ等）

★幼稚園（生活科）や中学校（あいさつ運動・宮っ子チャレンジウィークの受け入れ･中学校見学・昭和まつり等）との連携を通して，将来への希望と協働する力を育む児童を育成する。